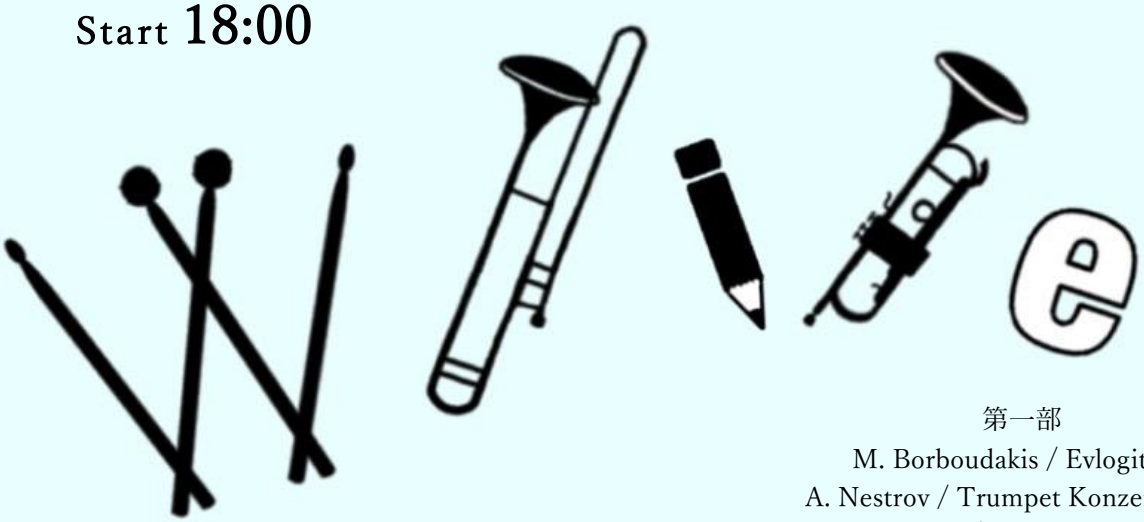
2022 9.2 FRI

White album
~flow of times~
Joint Recital 2022 Group Ⅰ

主催：洗足学園音楽大学・大学院

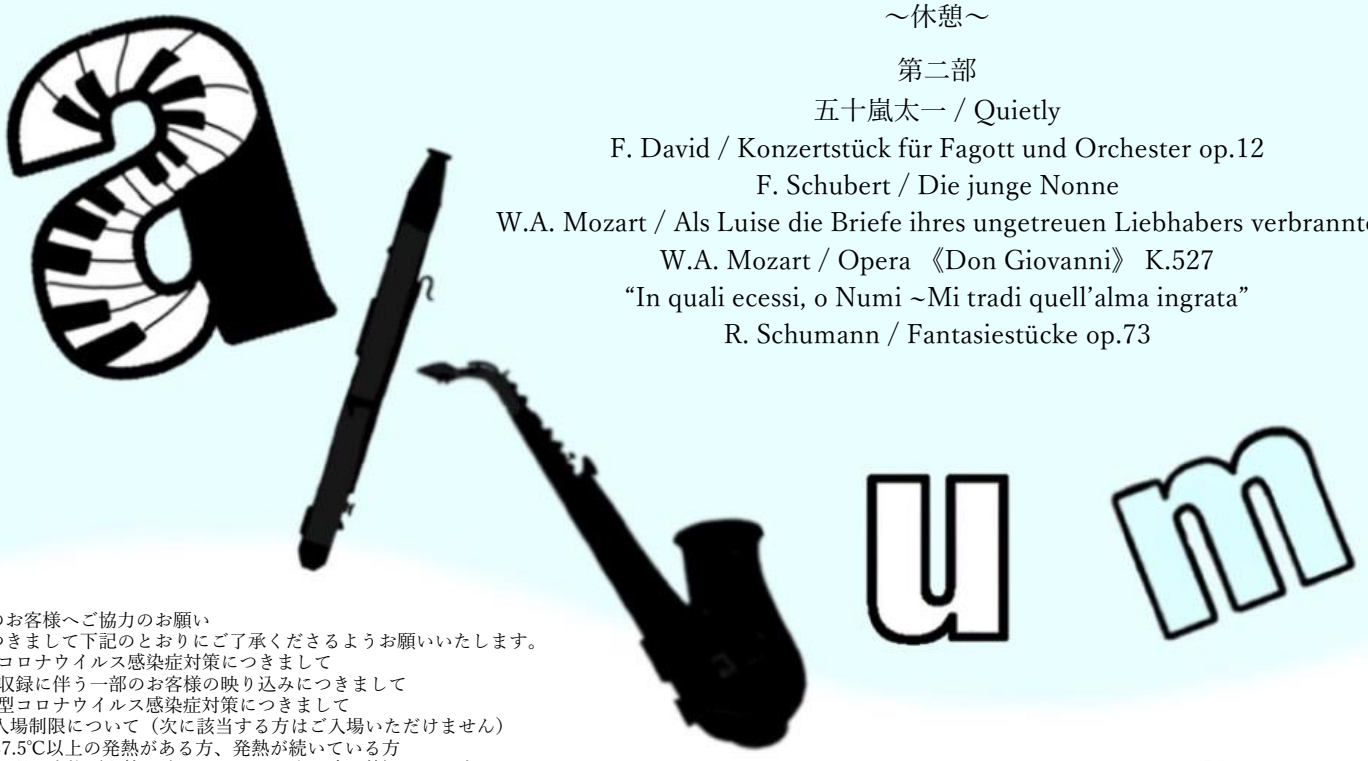
Open 17:30
Start 18:00



第一部
M. Borboudakis / Evlogitaria
A. Nestrov / Trumpet Konzert c moll
E. Granados / Allegro de concierto
N. Rota / Concerto per trombone e orchestra

～休憩～

第二部
五十嵐太一 / Quietly
F. David / Konzertstück für Fagott und Orchester op.12
F. Schubert / Die junge Nonne
W.A. Mozart / Als Luise die Briefe ihres ungetreuen Liebhabers verbrannte
W.A. Mozart / Opera 《Don Giovanni》 K.527
“In quali ecessi, o Numi ~Mi tradi quell’alma ingrata”
R. Schumann / Fantasiestücke op.73



ご来場のお客様へご協力のお願い
次項につきまして下記のとおりにご了承くださるようお願いいたします。
1 新型コロナウイルス感染症対策につきまして
2 公演収録に伴う一部のお客様の映り込みにつきまして
①新型コロナウイルス感染症対策につきまして
◎入場制限について（次に該当する方はご入場いただけません）
・37.5℃以上の発熱がある方、発熱が続いている方
・風邪の症状（発熱、咳、くしゃみ、喉の痛み等）がある方
・強いだるさ（全身倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある方
・その他体調に不安がある方（味覚・嗅覚障害、目の痛みや結膜の充血、頭痛、関節痛、下痢、吐き気等）
・新型コロナウイルス感染症陽性とされた方との濃厚接触があり、行動制限中となっている方。
・政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触があり、行動制限中となっている方。
※基礎疾患（糖尿病・心不全・呼吸器疾患等）がある方、妊娠中の方は、医師の判断や関係機関の情報を確認の上、慎重なご判断をお願いします。
◎ご入場に際し、以下の事項についてご協力をお願いします。
・上記「入場制限について」への同意
・感染者が発生した場合には、必要に応じてご来場者情報を保健所へ提供させていただく場合がございますので予めご了承ください。（提出いただいた個人情報はコロナウイルス感染の発生がなかったことを確認の上、演奏会約三か月後に適切に削除します
・マスク着用の徹底（不織布マスクを推奨、鼻にフィットさせ正しく着用のこと）やソーシャルディスタンスの確保などエチケットの厳守をお願いします。
・楽屋面会、花束やプレゼントの持ち込みはお控えください。
・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしていただきますようお願いします。
◎車いすでご来場のお客様へ
・車いすでご来場のお客様はチケット購入前に予めお問い合わせいただきますようお願いいたします。
②公演収録に伴う一部のお客様の映り込みにつきまして各公演では、映像収録および写真撮影用の機材が会場内に入り、ご来場のお客様の様子が映像・写真等に映りこむ場合がございます。
収録された映像・写真等は、YouTube や SNS、ウェブサイト、テレビ、印刷・出版物等において、大学案内等のプロモーションやその他の目的で使用される可能性がございますので、予めご了承下さい。

ご挨拶

ご来場の皆様へ、本日は学内リサイタル講座ジョイントリサイタルへようこそ。本日演奏する学生は、この前田ホールで独奏を経験する事の出来る少ないチャンスを得られた 48 名の学生です。これまで 4 年間の研究生活で、切磋琢磨して磨き上げたその成果をお聴きいただき、これから日本そしてアジア、世界へ羽ばたこうとする若人へ拍手とマスクで声は出せませんが心の中から声援を送って下さい。

洗足学園音楽大学　教授　渡部　亨

教授　大和田雅洋

本日は、第 1 回リサイタル講座後期演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。
本授業、学内リサイタル講座の演奏会は、違う楽器の履修生 8 人が集まることで様々な時代や国の作曲家が集まり、ここでしか聴くことの出来ない特別な演奏会であると思います。私たちは演奏会のテーマとして「White album」を掲げています。
まだ何もない真っ白なキャンバス。8 人それぞれの多彩なカラーで染め、ひとつの大きな作品を作り出す。そのような意味を込めました。本来は卒業試験など、数少ない場でしか演奏の機会がない前田ホールでソロの演奏が出来る貴重な機会ですので、お越しいただいた皆様に楽しんでいただくことは勿論、私たちもこの機会を楽しみ演奏したいと思います。
最後になりますが、リサイタル開催にあたり御尽力頂きました渡部亨先生、大和田雅洋先生をはじめ、関わってくださった全ての方に心より御礼申し上げます。

学内リサイタル講座　グループ代表　重井 拓人

Program

第一部

1. 林 拓海(PI)
   M. ボルボウダキス ／ エウロギタリア
   M. Borboudakis / Evlogitaria

2. 磯野 沙弥香(TP)　piano 小松祥子
   A. ネステロフ ／ トランペット協奏曲 ハ短調
   A. Nestrov / Trumpet Konzert c moll

3. 小林 萌(PF)
   E. グラナドス ／ 演奏会用アレグロ
   E. Granados / Allegro de concierto

4. 篠塚 裕太(TB)　piano 小松 祥子
   N. ロータ ／ トロンボーン協奏曲
   N. Rota / Concerto per trombone e orchestra
   第 1 楽章 Allegro giusto
   第 2 楽章 Lento,ben ritmato
   第 3 楽章 Allegro moderato

第二部

5. 五十嵐 太一(CO)
   五十嵐 太一 ／ Quietly
   player 榎本 耀, 林 英希, 八木 侑弥, 吉野 萌

6. 平川 眞鈴(FG)　piano 吉崎 理乃
   F. ダヴィッド ／ 小協奏曲 作品 12
   F. David / Konzertstück für Fagott und Orchester op. 12
   第 1 楽章 Andante cantabile
   第 2 楽章 Presto agitato

7. 河村 未奈(VO)　piano 岡崎 渚紗
   F. シューベルト ／ 若い尼
   F. Schubert / Die junge Nonne
   W.A. モーツァルト ／ ルイーゼが不実な恋人の手紙を焼いたとき
   W.A. Mozart / Als Luise die Briefe ihres ungetreuen Liebhabers verbrannte
   W.A. モーツァルト ／ 歌劇《ドン・ジョヴァンニ》K.527 より
   “私を裏切ったのよあの恩知らずは”
   W.A. Mozart / Opera 《Don Giovanni》 K.527
   “In quali ecessi, o Numi ~Mi tradi quell’alma ingrata”

8. 重井 拓人(SX)　piano 石田 多紀乃
   R.シューマン ／ 幻想小曲集 作品 73
   R. Schumann / Fantasiestücke op.73
   第 1 楽章 Zart und mit Ausdruck(静かに、そして表情豊かに)
   第 2 楽章 Lebhaft, leicht(生き生きと、軽やかに)
   第 3 楽章 Rasch und mit Feuer(急速に、燃えるように)

Program Note

○M. Borboudakis (b. 1974) / Evlogitaria

M. ボルボウダキスはギリシャ、イラクリオン出身。この曲は現代音楽作曲家、建築家でもあるI.クセナキスが作曲した「ルボン a,b」や「プサッファ」をモチーフにして作られた曲である。その背景には、多くの金属楽器を使い細かいリズムを演奏する中で、突発的な空気感を作りだすプサッファの独特な良さが書かれ一方で、木質楽器を使ってメロディックにリズムを刻む「ルボン」の良さが引き出されて書かれている。こうして、クセナキスのそれぞれの曲の良さを1つの作品として作曲された。国際コンクールなどで演奏することも非常に多い。（林拓海）

○A. Nestrov (1918-99) / Trumpet Konzert c moll

A. ネステロフは旧ソビエト連邦(現ロシア)出身の作曲家である。この曲は元はオーケストラバックで演奏されるもので今回はピアノアレンジ版で演奏する。1楽章はオーケストラとトランペットが対話のようにゆったりと同じ旋律を奏でていくスタイルである。短調の哀愁を持ちながらカデンツァで力強さも感じられる。2楽章は民族風味を感じる踊りや祭りを彷彿とさせる音楽が特徴的である。 3楽章は今までと打って変わってアップテンポで軽やかに始まり、曲の最後は華やかに終わる。(磯野沙弥香)

○E. Granados (1867-1916) / Allegro de concierto

E. グラナドスによって1903年に作曲されたこの曲は、彼の代表曲集《ゴイェスカス》などと並んで現在でも頻繁に演奏される作品となっている。非常に華やかな前奏部分に続き、甘く切ない歌が美しく歌われていく。シューマンやショパンの影響をうけたグラナドスのロマンティックな側面がよくあらわれている。一方で、オクターブを駆使した大胆な動きやかけめぐるアルペッジョはリストの作品を想わせる。(小林萌)

○N. Rota (1911-79) / Concerto per trombone e orchestra

N.ロータの《トロンボーン協奏曲》は、1966年に作曲され、1969年3月にミラノにて、ブルーノ・フェラーリによって初演された。ロータはクラシック音楽の作曲家であると同時に、映画音楽の分野でも多大なる業績を挙げ、現在でもテレビ等でよく耳にする《ゴッドファーザー愛のテーマ》も彼が作曲したものである。トロンボーン協奏曲は3つの楽章からなる。演奏していてそれぞれの楽章に持った印象は、軽快さ、柔らかさ、激しさの3つの面を持つ1楽章、歌曲的で感情的な2楽章、1楽章の軽快さや激しさ、2楽章の歌曲的な面を併せ持ち、かつ華やかさのある3楽章というものであり、まさに映画を鑑賞しているような気持ちになれる協奏曲である。(篠塚裕太)

○五十嵐 太一 / Quietly

Quietly という単語には様々な意味があるが自分は「凝然とした」という意味を込めて今回の題名にした。「凝然とした」という言葉は動かない様子を示しめす。今回の作品はその動かない物質の視点から見た周りの環境の変化、それにより物質がどのように変化していくのか、ということを想像し5曲の組曲として表現した作品である。快く演奏を引き受けてくださった演奏者の方々にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。(五十嵐太一)

○F. David (1810-73) / Konzertstück für Fagott und Orchester op.12

F. ダヴィッドはドイツ ハンブルグ出身のユダヤ系ドイツ人。メンデルスゾーンと親交が深いことで有名で、彼のヴァイオリン協奏曲ホ短調の初演をソリストとして務めた。第1楽章 Andante cantabile、冒頭主題 変ロ長調の夢のような美しい主題から始まり、段々と3連符や16分音符で形を変えて展開していき、 ソロによるカデンツァで終わる。第2楽章 Presto agitato、第1楽章とは性格の異なる、非常に勢いのある主題が何度も登場する。素朴な音階の羅列にも細かい アーティキュレーションによって、変化が楽しめる。後半はテンポが上がり下降系のアルペジオで追い上げ雄大に作品を閉じる。(平川眞鈴)

○F. Schubert (1797-1828) / Die junge Nonne

F. シューベルトは初期ロマン派を代表し、古典派とロマン派の懸け橋となったと言われている作曲家であり、ドイツ歌曲を多く作曲したことで有名である。嵐と教会の鐘の音をおもわせる伴奏が特徴的で、前半部分は若い尼の情念を、後半では神への信仰心(愛)を歌っている。邦語では尼と訳されているが、実際には修道女のことを指す。後半転調部分によって嵐(情念)が止み、修道女(＝花嫁)が神(＝花婿)への深い信仰(＝愛)へ変わっていく様子を効果的に表現している。(河村未奈)

○W.A. Mozart (1756-91) / Als Luise die Briefe ihres ungetreuen Liebhabers verbrannte

この曲は21小節という短い曲ながら、女性の相手に対する怒りや捨てきれない未練を大きな波で歌っている曲である。一説によるとこの詩を書いたガブリエーレ・フォン・バウムベルクの実体験に基づいて書かれたものであるそう。手紙が燃える様子、湧き上がる怒りの炎とそれに反する捨てきれない愛情の炎に葛藤する様子を細かい分散和音で表現している。(河村未奈)

○W.A. Mozart / Opera《Don Giovanni》 K.527 " In quali ecessi, o Numi ~ Mi tradi quell'alma ingrata"

《ドン・ジョヴァンニ》といえばW.A.モーツァルトが書いたオペラの中でも人気の高いオペラで有名である。この曲はウィーン公演に際し、ドンナ・エルヴィーラ役のカテリーナ・カヴァリエーリのために後から追加された。ドンナ・エルヴィーラが自分を裏切ったドン・ジョヴァンニのことを恨み裁きを受けるべきと思いながらも胸の内にあり続ける彼への愛という相反する感情に葛藤する様子を歌っている。(河村未奈)

○R. Schumann (1810-56) / Fantasiestücke op.73

R.シューマンはドイツの作曲家。のちの妻、クララの父F.ヴィークの元でピアノを学んだ。右手を痛めたことでピアニストを諦め、作曲家の道へ進む。1849年に独奏楽器のための一連の作品のうちの1つとして、わずか2日間で作曲した作品だが、今日ではクラリネットの他にもチェロや本日演奏するサクソフォンなど、幅広い奏者に今でも愛される作品となっている。3つの楽章それぞれ違った性格を持っているが各楽章、間をおかず演奏するよう指示があるため全楽章を通し一体感がある。第1楽章Zart und mit Ausdruck(静かに、そして表情豊かに)、ピアノが奏でる3連符に乗り、ゆっくりと主題が歌われる。本曲において唯一の短調の楽章が心の葛藤を表し、時折光を見せながら終止へ向かう。第2楽章Lebhaft, leicht(生き生きと、軽やかに)、ピアノの3連符の中に隠されたモチーフが軽快に奏でられる。中間部は半音階をモチーフにしている。第3楽章Rasch und mit Feuer(急速に、燃えるように)、勢いよくかけ上がるモチーフが度々登場しテンポよく音楽が進んでいく。やがて第1楽章、第2楽章のモチーフが登場し、それぞれの楽章が糸を紡ぐように絡み合い、華々しいフィナーレへと向かっていく。(重井拓人)

Profile

林拓海　Takumi Hayashi　— 打楽器

千葉県出身。横浜創英高等学校出身。現在洗足学園音楽大学4年次在学中。2019,2020,2021年度打楽器コース成績最優秀賞受賞。第1回洗足打楽器コンクールにて審査員特別賞受賞。これまでに打楽器を古川玄一郎氏、石井喜久子氏、室内楽を村瀬秀美氏に師事。

磯野沙弥香　Sayaka Isono　—トランペット

福岡県出身。福岡工業大学附属城東高等学校出身。現在洗足学園音楽大学管楽器コース4年次在学中。第27回KOBE国際コンクール優秀賞。第7回K金管楽器コンクール第2位。トランペットを佛坂咲千生、中山崇隆の各氏に師事。室内楽を林辰則、古田俊博の各氏に師事。

小林萌　Moe Kobayashi　— ピアノ

福島県出身。福島県立原町高等学校普通科出身。現在洗足学園音楽大学ピアノコースアンサンブルスタディクラス4年次在学中。これまでにピアノを遠藤葉子、森知子、半澤淳子、末木裕美の各氏に師事。室内楽を浦壁信二氏に師事。アンサンブルを冨平恭平氏に師事。

篠塚裕太　Yuta Shinozuka　—トロンボーン

茨城県出身。常総学院高等学校出身。現在洗足学園音楽大学4年次在学中。2021年度茨城県芸術祭県民コンサート(Ⅰ)『クラシック音楽の響演』にて茨城新聞社賞受賞。これまでにトロンボーンを小田桐寛之、玉木優の各氏に師事。室内楽を府川雪野、古田俊博の各氏に師事。ニューヨーク・フィルハーモニック首席トロンボーン奏者ジョセフ・アレッシ氏のオンラインマスタークラスを受講。

五十嵐太一　Taichi Igarashi — 作曲

東京都出身。明星学園高等学校出身。現在洗足学園音楽大学作曲コース4年次在学中。これまでに作曲を大竹くみ、音楽理論を原田愛の各氏に師事。ピアノを水野紀子、石田多紀乃の各氏に師事。

平川 眞鈴　Marin Hirakawa — ファゴット

アメリカ合衆国ロサンゼルス出身。平塚学園高等学校出身。洗足学園音楽大学を特待生として入学、現在同大学4年次在学中。前田音楽奨学生。ファゴットを吉田將に師事。室内楽を同氏、辻功の各氏に師事。F.マゼッリ氏のマスタークラス、G.ヌニェス氏の特別レッスンを受講。《響け！ユーフォニアム》公式吹奏楽団プログレッシブ！ウインドオーケストラ コアメンバー。

河村未奈　Mina Kawamura — 声楽 ソプラノ

東京都出身。大妻中野高等学校出身。現在洗足学園音楽大学声楽コース4年次在学中。2020、2022年度声楽コース特別選抜生。これまでに声楽を谷口ひとみ、飯田千夏の各氏に師事。ピアノを谷口ひとみ、瀬尾友里、梶木良子の各氏に師事。

重井 拓人　Takuto Shigei　— サクソフォン

北海道出身。北海道北見北斗高等学校出身。現在洗足学園音楽大学4年次在学中。前田記念奨学生。国内外のアカデミーに参加し研鑽を積む。これまでにサクソフォンを貝沼拓実氏に師事。室内楽を江川良子、本堂誠、貝沼拓実の各氏に師事。J.Y.フルモー、A.スーヤ、各氏のマスタークラスを受講。

F. Schubert / Die junge Nonne
F. シューベルト / 若い尼

Wie braust durch die Wipfel der heulende Sturm!	梢の中を激しく吹き抜ける何と恐ろしい嵐なのでしょう！
Es klirren die Balken, es zittert das Haus!	梁がぎしぎしときしみ、家もがたがた震えている！
Es rollet der Donner,　es leuchtet der Blitz!-	雷鳴がとどろき稲妻が光る！
und finster die Nacht, wie das Grab!-	そして夜は暗く、まるで墓場のよう！
Immerhin, immerhin!	いつも、いつも！
Zo tobt' es auch jüngst noch in mir!	この嵐と同じように私の心も荒れていたの！
Es brauste das Leben, wie jetzo der Sturm!	吹き荒れる嵐のように私の人生もうなっていたの！
Es bebten die Glieder, wie jetzo das Haus!	今揺れているこの家のように私の体も震えていた！
Es flammte die Liebe, wie jetzo der Blitz!-	ちょうど今光った稲妻のように私の愛も燃え上がった！
Und finster die Brust, wie das Grab!-	なのに胸の中は暗く、まるで墓場のよう！
Nun tobe, du wilder gewalt'ger Sturm!	さあ、荒れ狂うがよい激しく、力強い嵐よ！
Im Herzen ist Friede, im Herzen ist Ruh!-	今私の心は安らぎ、落ち着いています。
Des Bräutigams harret die liebende Braut,	花嫁の私は愛を捧げながら花婿を待っているのです
Gereinigt in prüfender Glut-	聖なる火に清められ、
Der ewigen Liebe getraut.-	永遠の愛に身を捧げます。
Ich harre, mein Heiland, mit sehnendem Blick;	この憧れの眼差しで我が救い主をお待ちしているのです！
Komm, himmlischer Bräutigam! hole die Braut!	天井の花婿様、この花嫁を迎えにおいでください。
Erlöse die Seele von irdischer Haft!-	この魂を地上の束縛からお救いください！
Horch! friedlich ertönet das Glöcklein vom Turm;	聞こえます！教会堂の鐘の音が穏やかに鳴り響いてくるのが！
Es lockt mich das süße Getön	その甘い響きは私を恍惚とさせ、
Allmächtig zu ewigen Höhn-	永遠の高みへと引き上げてくれるのです。
Alleluja!	アレルヤ！

W.A. Mozart /Als Luise die Briefe ihres ungetreuen Liebhabers verbrannte
W.A. モーツァルト / ルイーゼが不実な恋人の手紙を焼いたとき

Erzeugt von heißer Phantasie,	熱い幻想によって生み出され
In einer schwärmerischen Stunde	熱狂的な時に
Zur Welt gebrachte, geht zu Grunde,	この世にもたらされた者たちよ、地獄に行くがいい
Ihr Kinder der Melancholie!	お前たち　憂鬱の申し子よ！
Ihr danket Flammen euer Sein,	お前たちがあるのは情熱の炎のおかげなのです
Ich geb' euch nun den Flammen wieder,	私はお前たちを再び炎に返してあげるわ
Und all' die schwärmerischen Lieder,	そしてこの熱狂的な歌たちもすべて
Denn ach! er sang nicht mir allein.	だって、ああ！彼は私にだけ歌ったのではなかったのよ
Ihr brennet nun, und bald, ihr Lieben,	お前たちは燃えている、愛しい者たちよ
Ist keine Spur von euch mehr hier.	そしてすぐにお前たちの痕跡はなくなってしまうのだろう
Doch ach! der Mann, der euch geschrieben,	だけど、ああ！あの男、お前たちを書いた男は、
Brennt lange noch vielleicht in mir.	きっと私の中でずっと燃え続けるのでしょう

W.A. Mozart / Opera 《Don Giovanni》 K.527 “In quali ecessi, o Numi ~Mi tradi quell’alma ingrata”
W.A. モーツァルト /歌劇《ドン・ジョヴァンニ》より “私を裏切ったのよあの恩知らずは”

In quali eccessi, o Numi,	何てひどい、　ああ神々よ
in quai misfatti orribili, tremendi	この恐ろしくすさまじい大罪に
È avvolto il sciagurato! Ah no, non puote	まみれているの、あの悪人は！
Tardar l'ira del cielo!...	あり得ないわ！天の怒りが遅れるなんて
La giustizia tardar. Sentir già parmi	裁きがすぐに下りないなんて！
La fatale saetta	すでに運命の稲妻が私には聞こえているの
Che gli piomba sul capo!... aperto veggio	あの男の頭の上に落ちる！. . .
Il baratro mortal... Misera Elvira,	死の深淵が開いているのが見えるわ. . .　哀れなエルヴィーラ
Che contrasto d'affetti in sen ti nasce!...	何という矛盾した思いが生まれてくるの！. . .
Perchè questi sospiri, e queste ambascie?-	どうしてこのため息がでるの？どうして苦悩が？
Mi tradì, quell'alma ingrata!	私を裏切ったのよ　あの恩知らずは
Infelice, o Dio! mi fa.	そして私を不幸にしたのよ　おお神様！
Ma tradita e abbandonata,	でも裏切られも捨てられても
Provo ancor per lui pietà.	私はまだあの男に哀れみを感じるの
Quando sento il mio tormento,	この苦悩を感じる時に
Di vendetta il cor favella:	復讐を心が呼びかけるの
Ma se guardo il suo cimento,	だけど　あの人の姿を見ると
Palpitando il cor mi va.	私の心はときめいてしまうの